我が国の標識調査と国際協力

我が国の鳥類標識調査は、昭和36年以来、財団法人山階鳥類研究所において実施され、渡り鳥の行動、渡りのルート解明等渡り鳥の保護対策を樹立する上で貴重な資料を提供してきている。最近の事例でも標識調査によって出水のツルがソ連や中国東北部で繁殖していることが裏付けられるなど大きな成果があがっている。

我が国は、アメリカ、オーストラリア及び中国の3カ国と渡り鳥条約を締結し、定期的に会議を開催しているが、この中で標識調査の実施における協力の推進が主要議題の一つとなっている。また、近年東南アジアの発展途上国において、標識調査を含め渡り鳥保護の分野で、我が国が指導的役割を果たすことを期待する声が高まってきている。

このような国際的要請に応え渡り鳥保護の総合的展開に寄与するため、我が国は、渡り鳥の標識調査を今後、従来にもまして効果的に推進していく必要があると考えている。

環境庁自然保護局野生生物課長

佐野 弘 (Hiroshi Sano)

Wildlife Division, Nature Conservation
Bureau, Environment Agency

翼長によるヒヨドリの雌雄の判別

Sexing of the Brown-eared Bulbul

(*Hypsipetes amaurotis*) by wing length

村田 省吾 (Shogo Murata)

ヒヨドリは、毎冬平均的な放鳥数は望めないものの、集団化が発生する年には比較的多くの個体を標識放鳥することができる(1984年1~3月に約700羽放鳥)。筆者は1983年以来本種の調査をおこなっているが未だリカバリー(Rc)例はなく、3例のリターン(Rt)を記録したのみである。

これまで標識時には雌雄の判別に苦慮してきたが、幸に有害鳥獣駆除による死体を多数入手することができ、解剖によって確認した性別と、翼長(最大)に明らかな関係を見いだすことができたので、その概要を報告する。

材料と方法：材料としたヒヨドリは山口県宇部市上宇部西山において有害鳥獣駆除により死亡したものである。入手個体数は、1983年1月23羽、1984年2月9日19羽、同2月12日6羽、同2月20日20羽、1986年2月23日20羽の合計88羽である。

材料は解剖前に各部の測定をし、羽色も比較の上記録した。その後解剖して卵巣・精巣を確認し性別したが、測定のみで解剖しなかったものや、記録の不十分なものを除き35例について以下にのべる。

結果：1983年1月に入手した個体について予備的に各部の計測値と性別を検討したところ、最大翼長(翼を平らにおしつけ、まっすぐにのばした長さ、以下翼長と略す)に著しい性差があることを見出した。その他尾長にも注目したが、尾羽は曲折や先端の折損などが多いため、正確に測定するこ

とができなかった。

翌年以降は、主にこの翼長に注目して記録し 1986 年までの材料のうち 35 個体について、性別と翼長の関係をヒストグラムに表わした (図 1)。これによると翼長が 116–125 mm はすべて雌 (16 個体)、129–140 mm はすべて雄 (16 個体) で、127 mm の個体は雌が 2 例、雄が 1 例であった。従って、翼長 127 mm が雌雄判別の境界値であり、これより小さいものは雌、大きいものは雄であるといえよう。

なお、翼長 127 mm の 3 個体については次の性差が認められた。雄は胸部から腹部にかけて黒斑が多いため、全体的に黒色味が強く、茶さび色は少なく、下尾筒の白が多い。雌では胸や腹部が雄に比して黒色味が淡く、赤さび色が濃く、下尾筒まで続く (図 2)。

まとめ：「最大翼長」値でのヒヨドリの雌雄の判別境界値は 127 mm で、126 mm 以下は雌、128 mm 以上は雄であることが判った。127 mm の個体については胸や腹部の羽色が性別の参考となる。

図 1. ヒヨドリの翼長

Fig. 1. Wing length of *Hypsipetes amaurotis*

図 2. ヒヨドリ *Hypsipetes amaurotis* の胸腹部の羽色の性差 (赤外線カラーフィルム使用)
Sexual difference of the colors of the breast and abdomen in the Brown-eared Bulbul (infrared color film).

シラの観察に携わっている駒村実氏が、約1ヶ月にわたって早朝に出向いては行動を追い、繁殖場所をつきとめた。巣は桑畑を中心とした集落の平屋建て瓦葺きの集会所の天井裏にあった。ただちに研究グループが組まれた。そして孵化後約1週間、入口をふさいで雌親と雛6羽にリングを付けた。その後雄親が大豆畑の防鳥網にからんで死亡し、雌1羽で4羽の雛を巣立たせた。

この時期と前後して、岩手県田畑村で繁殖確認の報が入った。また昨年佐久市でリングを付けた雛の1羽が、北海道松前郡で網にかかって保護されたとのことである。早くも標識の成果が現われ、県内にずっといるのではないかという今までの憶測を否定した。初年度以降繁殖した全ての個体に標識していたなら、もっと詳しい結果が得られたと思うと残念であった。今回ヤツガシラの標識調査に関しては、標識の重要性を理解して協力して下さった柏木喜久男氏や駒村実氏、また良きアドバイスと指導をして下さった中村登流教授、営巣地の家主及び地域住民の御協力に深く感謝する。

〒399-07 長野県塩尻市東山1498-4

1498-4 Higashiyama, Shiojiri-shi, Nagano 399-07

気になる標識鳥情報

Topics of banded birds

この欄では研究所に届けられたバンディング記録のうち、最新かつ興味深いものをお知らせします。

- 凡例
- N: nestling 巣内雛 J: juvenile 幼鳥 A: adult 成鳥 U: unknown 性または齢不明
 - ♂: male 雄 ♀: female 雌 (): latitude and longitude 緯度、経度
 - [+]: shot or killed 狩猟その他、故意に殺されたもの
 - [V]: caught alive and released 捕獲後放鳥したもの
 - [?]: manner of recovery unknown 回収方法不明

オバシギ *Calidris tenuirostris*

050-07192 UJ 16 Sep.'79 千葉県富津市曽根新田 Chiba Pref. (35°20' N, 139°51' E) 茂田良光放鳥→ 0 Apr.'85 (day is unknown. 日付不詳) Lixin Village, Changming Co, Shanghai, China (31°36' N, 121°18' E) [?] オバシギ回収の初記録。

ヤツガシラ *Upupa epops*

040-30992 UN 7 Jul.'85 長野県佐久市横根 Nagano Pref. (36°17' N, 138°30' E) 小林建治放鳥→ 27 May.'86 北海道松前郡松前町字札前 Hokkaido Pref. (41°28' N, 140°02' E) [V] 防鳥網にかかり回収。バンディング及び回収の初記録。

ニュウナイスズメ *Passer rutilans*

024-95006 ♂J 22 Sep.'85 新潟県豊栄市新鼻福島潟 Niigata Pref. (37°54' N, 139°15' E) 尾崎清明・米田重玄放鳥→ 10 Feb.'86 奈良県磯城郡田原本町 Nara Pref. (34°33' N, 135°49' E) [+] net 網罟。移動期に放鳥され、回収地で越冬していたと推察される。ヤツガシラ同様、不明点の多い本種の移動を示す例として注目できる。

ミヤマヒタキ *Muscicapa ferruginea*

021-06562 UU 17 Apr.'86 鹿児島県鹿児島郡十島村平島 Kagoshima Pref. (29°41' N, 129°32' E) 百瀬邦和放鳥。バンディング初記録。

(資料提供：山階鳥類研究所標識研究室)